

まちのわだい



ボランティアに支えられて

〜第34回全日本トライアスロン皆生大会〜

7月27日、毎年恒例の鉄人レースが今年も開催され、自転車コースとなっている伯耆町では、85人のボランティアが選手の健闘を支えました。ボランティアは、大山平原ゴルフクラブ前から丸山集落下の半川別れ交差点まで計12か所のコースポイントと、植田正治写真美術館前に設置されたエイドステーションに分かれ、選手の誘導や飲食物の提供などを行いました。

最高気温30度を記録する真夏日の中、エイドステーションでは、ボトルに冷たい飲み物に移したり、果物を切り分けたり、体に水をかけたりして、選手たちの熱走を支えました。



おにぎりのもてなし



頭から水をかけてクールダウン

新成人を祝う

〜伯耆町成人式〜

平成26年度伯耆町成人式が8月15日、鬼の館で開催され、105人の新成人が参加しました。

今年の新成人は、平成6年4月2日から平成7年4月1日生まれで、伯耆町では135人が該当します。式典では初めに、岸本風神太鼓振興会の演技や町長のあいさつが行われた後、新成人を代表して長尾奈津美さんが、これまで支えてくれた家族、友達、地域の方々すべての人に感謝をするともに、一人一人が成人としての決意を忘れず、力強く、たくましく、全力で過ごし、生きていくことを誓います。と決意を語りました。

式典終了後、元NHKアナウンサーの藤澤武さんを招き、「放送ごぼれ話」という演題で記念講演が開催されました。

終了後会場では、旧友や恩師との再会を喜ぶ新成人の姿も見られ、それぞれの近況や学生時代の思い出話しに花が咲き、和やかな雰囲気になっていました。



新成人誓いの言葉を述べる長尾奈津美さん



講演に聞き入る新成人

日野川の自然に触れる

〜きしもと鮎友釣り大会〜

第21回きしもと鮎友釣り大会が、7月27日、伯耆町役場裏の日野川土手で開催されました。

この大会は、鮎釣りをとおして自然を感じ、日野川を大切にもらうと、日野川水系漁業協同組合岸本支部が毎年開催しています。今大会は、地元をはじめ島根県や岡山県から47人が参加し、予選と決勝の2回、制限時間内に釣り上げた鮎の数を競いました。参加者は、竿先や手元に神経を集中させ、鮎を釣り上げていました。

優勝は、決勝で10匹の鮎を釣り上げた米子市の糸田正美さんで、伯耆町からは、7匹釣った三部の南波英昭さんが4位となりました。なお、南波さんは、この日最も大きい23.4cmを釣り上げ、大物賞を獲得されました。



思い思いのポイントで鮎を狙う選手



小型の鮎が多い中、20cmを超える良型も交る

雨の中の交流会

〜大山日光清流まつり〜

日光地区の自然の素晴らしさを感じてもらおうと、8月17日、日光公民館で大山日光清流まつりが開催され、子どもたちがイワナのつかみ取りに挑戦しました。

日光地区協議会の主催で行われているこのイベントは、今年で7回目となります。この日はあいにく雨模様となり、白水川河川敷から会場を変更しての開催となりました。参加したのは、日光地区の住民や、お盆に帰省した家族、日光地区と交流している米子市義方校区の住民などおよそ80人です。

イワナのつかみ取りでは、軽トラツツの荷台にブルーシートを敷き、イワナを放して、子どもたちが歓声をあげて捕まえていました。

また、特設テントと公民館では、焼きそばやかき氷が振る舞われ、訪れた人たちは、おいしそうに味わっていました。



イワナを素手でつかみ取り



イワナの串焼きやそばを振る舞う